

大地の鼓動、情熱と歓喜の南半球へ



神戸発着 107日間 2025.12.14 (日) - 2026.3.30 (月) 横浜発着 107日間 2025.12.15 (月) - 2026.3.31 (火)

VOYAGE122



パシフィック・ワールド号でゆくピースボート地球一周の船旅
2025年12月 Voyage122

船室について

- 全室シャワー・トイレ・冷蔵庫完備です。
- 船室は、上段ベッド付きとなる場合がございます。指定はお受けできません。
- A1、A2、A3、A4、Bクラスのお一人様利用は、ご旅行代金の200%となります。D1、D2は180%です。
- A1、A2、A3、A4、B、D1クラスは、洗浄機付きトイレを完備しています。
- C1、G、I、Mクラスの1室申し込みでは、洗浄機付きトイレのオプション申込が可能です（有料）。
- A1、A2、A3、A4、Bクラスのソファは、ソファベッドとしてもご利用いただけます。
- A1、A2、A3、A4クラスは船室指定が可能です（船室指定後に旅行契約を解除なされる場合、船室指定取消料として旅行代金の5%を申し受けます。ただし、90日前以降は旅行条件記載の取消料に準じます）。
- 得な年齢割引もご利用ください！大人1名につき未成年1名無料（詳しくは弊社までお問い合わせください）
- 相部屋申し込みのお客様はシャワー、トイレ、ロッカー、その他の設備は同室者と共に用です。
- セミシングルタイプ、フ렌ドリタイプは、船室内をカーテンで区切り、プライベート空間を提供するコンパートメントタイプです。
- 旅行開始時13歳未満（中学生を除く）のお子様連れでの相部屋申し込みはお受けできません。
- フレンドリータイプの船室は、2段ベッドの下段指定が可能です（有料）。ベッド下のスペースは同室者との共用です。

ビザ（査証）取得について

- クルーズに必要なビザ（査証）は、弊社にて取得手続きの代行をいたします。
- 参加いただくオプションツアーによっては、ビザ取得の為に追加代金や追加書類をご提出いただく場合があります。
- 本パンフレット記載のビザ取得代金は日本国籍の方の代金です。日本国籍以外の方もお気軽にお問い合わせください。
- 米国入国には、ESTA認証（米国電子渡航認証システム）の事前取得が義務づけられています。（有料：21米ドル）

海外旅行保険への加入が必須です

ご旅行中に疾病や事故などの事態に遭遇し、思いもよらない高額な治療費用や救済費用などが発生した場合、法律上これらの費用は全てお客様個人のご負担となります。このような事態に備えるため、旅行期間のすべてがカバーされた海外旅行保険へ必ずご加入ください。海外旅行保険に加入されない場合、本旅行への参加をお断りする場合がございますので、予めご了承ください。

旅行変更費用補償特約の同時加入をおすすめします

クルーズの取消料はご出発の90日前から発生しますので、ご自身はもとより、ご家族・ご親戚の病気・事故などでご旅行をキャンセルしなければならぬ場合に備えて「旅行変更費用補償特約」に加入することをおすすめします。

海外安全情報

外務省の治安に関する海外安全情報より下記の通り危険情報が発出されておりますが、現地手配会社、関係省庁、船舶代理店などから最新情報を得て、当社が安全と確認しましたので本旅行を推奨いたします。

「レベル1」：十分注意してください
イースタス島、カヤオ、バルバライソ、プンタアレナス、ブエノスアイレス、モンテビデオ、サントス、リオデジャネイロ、フォルビスベイ、ケープタウン、ポートエリザベス、トアマナ

尚、現地の治安および感染症など海外の安全に関する情報は、お客様自身でも確認していただきますようお願いいたします。

旅行代金一覧（単位:円）

船室クラス	バルコニー/窓	フロア	ベア (2人部屋)	相部屋可	シングル (1人部屋)	セミシングル (2人相部屋)	フrendリー (3～4人相部屋)
オーナズスイート	バルコニー付	9-10	A1 8,660,000	—	—	—	—
ペントハウススイート		8	A2 8,160,000	—	—	—	—
プレミアムスイート		9-10	A3 7,660,000	—	—	—	—
スイート		8	A4 7,160,000	—	—	—	—
ジュニアスイート	窓あり	10	B 6,580,000	—	—	—	—
バルコニーⅠ		10-12	C1 4,180,000	○	I 7,524,000	—	—
バルコニーⅡ		9	C2 3,980,000	○	J 7,164,000	—	—
アウトサイドワイド		9-11	D1 3,380,000	○	—	—	—
アウトサイドビュー	窓なし	8	D2 3,280,000	○	—	—	—
アウトサイドⅠ		8	E 2,980,000	○	K 5,364,000	E2 3,080,000	—
アウトサイドⅡ	窓なし	5-6	F 2,820,000	○	L 5,076,000	F2 2,920,000	F4 4名 2,250,000
スタンダードインサイドⅠ		8-11	G 2,450,000	○	M 4,410,000	G2 2,550,000	G3 3名 2,190,000
スタンダードインサイドⅡ		5-6	H 1,980,000	○	N 3,564,000	H2 2,080,000	H4 4名 1,780,000

旅行企画・実施 株式会社ジャパングレイス（観光庁長官登録旅行業 第617号）

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-13
www.japangrace.com

一般社団法人日本旅行業協会正会員 旅行業公正取引協議会会員

振込口座 口座名義はいずれも (株)ジャパングレイス	三菱UFJ銀行 高田馬場支店 普通 1211859	三井住友銀行 高田馬場支店 普通 9103064	みずほ銀行 高田馬場支店 普通 1991082
----------------------------------	---------------------------------	--------------------------------	-------------------------------

Coordinated by

● PHOTO: PEACEBOAT、奥平啓太、亀田麗、中村亮利、松田咲香、水本俊史、B.Martinez www.fotosearch.jp、Christina Felchen、James Kerwin/robertharding、Hinata Yoshioka、pawopa3336、PONANT、Adobe Stock、Getty Images、shutterstock.com、ソ・ワルグッパ株式会社



【プライバシーポリシー】
株式会社ジャパングレイスでは、お客様からご提供いただく個人情報の取扱いについて、ウェブサイトにてご案内しております。
https://www.pbcrui.jp/privacy/

旅行条件(要旨) 一併旅行条件書をお渡しいたしますので、内容をご確認のうえ申し込みくださいー

本旅行条件書は、旅行業法第12条の4に定める取引条件説明書面および同法第12条の5に定める契約書面の一部となります。

1. 募集型企画旅行契約

本旅行はNGOピースボートがコーディネートし、株式会社ジャパングレイス（以下「当社」といいます）が企画・実施する旅行です。本旅行に参加されるお客様は、当社と募集型企画旅行契約（以下「旅行契約」といいます）を締結することとなります。

2. 旅行のお申し込み

当社所定の旅行申込書に所定の事項を記入のうえ、申込金として旅行代金の5%にあたる金額（別紙参照）を添えてお申し込みください。当社が申込金の受領確認が出来た時点で正式なお申し込みとなります。

3. 旅行代金に含まれるもの

①旅行日程に明記した船舶の運賃 ②船内宿泊（ご請求書に記載された船室クラス）、船内イベント（一部有料あり）の代金 ③明示した食事回数分の料金 ④船舶による手荷物運搬料金 ⑤添乗員の同行費

4. 旅行代金に含まれないもの（上記3項のほかは旅行代金に含まれません。その一部を以下に明示いたします。）

①オプションツアーの代金 ②船室クラス変更による追加代金 ③渡航手続費用（ビザ代・渡航手続代行手数料・予防接種料金等） ④船内のチップ（⑧ポートチャージ（港施設使用料等）⑨国際観光旅客税 ⑩海外旅行保険料、電話代、飲み物代などの個人的費用 ⑪超過手荷物料金 ⑫ご自宅から発着地までの交通費・宿泊費・手荷物運搬費 ⑬船舶のフェュエル（燃油）サーチャージ

5. 旅行代金のお支払い

①旅行開始日の前日から起算してまかのぼって60日に当たる日以降の当社の定める日までに申込金を除いた旅行代金及び諸費用等をお支払いください。②お申込金は使用客船の貸切代金の一部に使用いたします。

6. 特別補償

当社はお客様が企画旅行中に、急激かつ偶然な外来の事故により被られた一定の損害についてあらかじめ定める額の補償金および見舞金を支払います。

7. 取消料

お客様は次に定める取消料をお支払いいただくことにより、いつでも旅行契約を解除することができます。

取消日	取消料
91日前まで	無料
90日前以降61日前まで	旅行代金の5%
60日前以降31日前まで	旅行代金の10%
30日前以降21日前まで	旅行代金の20%
20日前以降3日前まで	旅行代金の30%
2日前（前々日）以降旅行開始日まで	旅行代金の50%
旅行開始後または無連絡不参加	旅行代金の100%

本旅行の使用客船は貸切船舶によるものであり、いかなる理由であれ、旅行開始後の船舶に係る旅行代金の払い戻しはありません。

8. その他

①クルーズにご参加の場合は、海外旅行保険にご加入されることを必須といたします。②旅行条件に定める事項は当該旅行業約款「募集型企画旅行契約の部」によります。なお、当社約款は当該ウェブサイトでご覧いただけます。

このパンフレット記載内容は2025年6月6日を基準としています。

別途諸費用 ※2025年6月6日現在の金額です

チップ合計	179,760
ポートチャージ合計	67,760
ビザ取得代金合計	18,680
国際観光旅客税	1,000

- 最少催行人員：1,000名
- 船中泊
- 日本人添乗員が同行します
- 食事：朝106回、昼106回、夕106回
- 医師、看護師が乗船します
- 使用客船：パシフィック・ワールド号（総トン数：77,441トン/全長：261.3メートル/全幅：32.25メートル/喫水：8.1メートル/乗客定員：2,419名/運航会社：シーボークコーポレーションリミテッドインク）

お申し込み・ご相談は 0570-030-617

11:00-17:00（定休：土日祝）
この電話は東京に着信し、通話料はお客様負担となります

営業所のご案内

来店の際はご予約をお願いします

(株)ジャパングレイス本社営業所

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-13マリンビル2F
FAX: 03-5287-3083（休館時間）
総合旅行業務取扱管理者：延原和正・本山誠 Ⅹ

(株)ジャパングレイス大阪営業所

〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27阪橋千代田ビル8F
FAX: 06-6442-3701（休館時間）
総合旅行業務取扱管理者：松本健介 Ⅹ

Ⅹ 総合旅行業務取扱管理者は、お客様との旅行を取り扱う営業所での取引に関する責任者です。この旅行契約に關し、担当者からの説明にご不明な点があれば、ご連絡なく上記の総合旅行業務取扱管理者にお尋ねください。

PEACEBOAT CRUISE
2025.12 Voyage122

FEATURES

THE GREAT JOURNEY

P4-9 人類の歩んだ、大いなる旅路に魅せられて

P10-11 人類を魅了する、色彩豊かな南半球の世界

SAMBA CARNIVAL IN BRAZIL

P12 ブラジルを楽しみつくす5日間

P13 世界最大規模の祭典 リオのカーニバル

OTHERS

P14-15 「世界のいま」を感じる 世界一周クルーズの旅
全寄港地一覧

人類の、旅のはじまり

THE BEGINNING OF THE JOURNEY

南半球をめぐる旅。それは、遥かなる時をかけて訪がれてきた壮大な風景の数々に包まれる体験です。

私たちが待っているのは、地球の歴史が創り出した大自然の絶景や、緑と調和した美しい街並み。そして、豊かな大地と共存し、受け継がれてきた先住民族文化との出会い。人類発祥の地であるアフリカ大陸から、人類が最後にたどり着いた南米大陸の南端、古くから人びとが行き交った文明の十字路まで、人類の足跡が刻まれた各地を旅します。

「我々はどこから来たのか」

いざ、時空を超えて人類のルーツをたどり、地球の未来について思いを馳せる——時空を超えた壮大な旅へと錨を上げます。

人類の歩んだ、 大いなる旅路に魅せられて

THE GREAT JOURNEY



関野 吉晴
Yoshiharu Sekino

一橋大学在学中に同大探検部を創設し、1971年アマゾン全域踏査隊長としてアマゾン川全域を下り、それをきっかけに南米に惚れ込む。その後25年間に32回、通算10年間にわたって、アマゾン川源流や中央アンデス、パタゴニア、アタカマ高地、ギアナ高地など、南米への旅を重ねる。その間、現地での医療の必要性を感じて、横浜市大医学部に入学。医師(外科)となつて、病院などに勤務しながら、20年にわたり南米通いを続けた。

1993年、アフリカに誕生した人類がユーラシア大陸を渡ってアメリカ大陸にまで拡散していった約5万キロの行程を、自らの脚力と腕力だけをたよりに遊行する旅「グレートジャーニー」に出発。南米最南端ナバリノ島をカヤックで出発して以来、足かけ10年の歳月をかけ、2002年2月10日ついにタンザニア・ラエトリにゴールした。

現在は、武蔵野美術大学で文化人類学を教えながら、世界各地への旅を続けている。1999年、植村直己冒険賞(兵庫県日高町主催)受賞。

『グレートジャーニー1〜8』『地球に生きる』『インカの末裔と暮らす』『幸福論』(共著)他、写真集・著書多数。

およそ700万年前にアフリカで誕生した人類は、その生息地を世界各地へと広げました。アフリカを出発した人類が最後にたどり着いたのは、南米大陸最南端・パタゴニアの海に浮かぶナバリノ島。探検家・医師の関野吉晴さんは、近代動力を使わずにこの島から人類の歩みを逆にたどり、始まりの地であるアフリカ大陸・タンザニアを目指す壮大な旅“グレートジャーニー”を敢行します。

人類はなぜ地球上、南極大陸以外のあらゆる場所に棲むようになったのか？

遥か53,000kmにも及ぶ人類の軌跡を独力で踏破した関野さんが見出したもの。

そして、南米・アフリカをめぐる旅の魅力とは。



撮影：関野吉晴

もはや南米は「未知の世界」ではない

私が南米に通い始めたのは、およそ50年前のこと。その頃は海外、特に南米を旅するのは一苦労でしたが、当時と比べて現在は状況が大きく変化しました。アマゾンやパタゴニアに対して「未知の世界」という印象を持っている方も少なくないと思いますが、本当に滅多に行けない地域というのは一割にも満たないのではないのでしょうか。今やアマゾンもパタゴニアも、少しの冒険心があれば車イスの方でも行くことができます。

そういった意味では、ビースポートの船旅は寄港地での過ごし方にバリエーションがあるので、大自然を身近に体験したい方にとってはとてもいい機会だと思います。港から近い場所で自然にふれることもできるし、思い切ってアマゾンの奥地やイグアスの滝、はたまた南極を訪れることも可能です。限られた人しか現地を訪れることのできなかった以前とは異なり、誰しもに世界とつながる可能性が開かれている——これは数十年前には叶わなかった旅のスタイルです。



南米大陸の魅力は多様性にあり

南米大陸には、地球上のすべての気候が揃っています。アマゾンには世界最大の熱帯雨林帯ですし、標高こそヒマラヤの山系に譲るもののアンデス山脈は世界最長を誇ります。パタゴニアは世界最大の山岳氷河を抱き、ペルーやチリの海岸部には砂漠もある。南米に暮らす人びとのルーツに注目しても、先住民族から黒人、白人、アジア系の移民まで、多様な人びとが入り混じっています。



「世界を旅した中で何がおいしかったですか」と聞かれることがあるのですが、やっぱり南米の味が一番ですね。素材で言えばビーグル水道のカニやムール貝。ウニも良かったですね。料理だとペルーとベネズエラです。ペルーはスペインのエッセンスと現地の食文化が組み合わさり、とてもおいしい。ベネズエラの料理は、もっとスペインの風味が強くなります。あとは、海外を旅したら市場に寄ってみてほしいですね。市場を訪れるとその土地のことがよくわかりますし、「食」を通じて人と人との交流が見えてきます。こうした多様性こそ南米大陸の魅力で、それこそ一生かけて研究しても間に合わないほどです。私は南米の魅力に取りつかれ、20年以上にわたってこの地に通い詰めるようになりました。

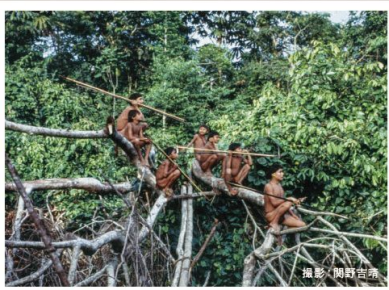
南米から「人類」の起源を遡りアフリカへ

足しげく南米に通う中で、「南米を深く知るためにも一度別の地域にも足を運んでみたら?」と声を掛けられることが度々ありました。それで、どうせ別の地域に通うなら、と始まったのがグレートジャーニーなんです。

世界各地に拡散した人類の旅路をたどるグレートジャーニーを着想するきっかけとなったのは、南米に暮らす先住民族の顔立ちでした。アンデスやアマゾン、パタゴニアの先住民族と暮らしてみると、彼らの顔立ちが似ていることに気がつきます。「彼らはどこから来たのだろうか?」という疑問が旅の始まり。当初、南米に暮らす先住民族の人的ルーツは、日本人と同じくシベリアかモンゴルか、アジア圏のどこかにあるのではないかと考えていました。ところが調査を重ねるうちに、そもそも「人種」という考えには科学的根拠はないことが判明したのです。こうして私の旅の目的は「人種」のルーツではなく「人類」の起源をたどることへと変わり、グレートジャーニーのゴールは人類発祥の地・アフリカに決まりました。

まだまだ信じられないものがあるアフリカ

南米のアマゾンやパタゴニアと比べても、アフリカには信じられないもの、驚異的なものが秘められています。なかでも私が好きなのは、アフリカ東部に位置するエチオピアです。アフリカ最古の独立国で、古いキリスト教の教えから独自に発展した「エチオピア正教会」を信仰する人びとが多数派の国です。私たちが一般的に想像するキリスト教のイメージとは大きく違い、エチオピア正教会の教えでは勤労よりも大切なものとして、宗教的な集まりをもつこと、つまり聖書の教えについて話し合うことと説いています。そのため、エチオピアではどこへ出かけても、どうしてこんなに人がいるのかと思うほど、道路上、道路沿いに人がたむろしているんです。そのうえ、よく声を掛けてくる。「ファラルゴ!」というのが掛け声です。最初、理解できなかったのですが、「Where are you going?」が訛って、短くなったものでした。私はどこへ行っても珍しがられ、とにかく人が集まってきました。こうした人びとのエネルギーや日本と大きく異なる価値観との出会いは、実際に現地を旅したからこそ体験です。



グレートジャーニーのゴールと、人類の旅のはじまり

いよいよグレートジャーニーの行程もケニアのナイロビからゴールのラエトリまでを残すだけとなった頃、野生の王国として有名な、ンゴロンゴ国立公園に入りました。公園内は原則として車での移動しか許されていないのですが、私はタンザニア政府の特別許可によって、公園内を自由に自転車車で走ってよいことになりました。ヌーの間を縫うように自転車を走らせると、ガゼル、インパラ、シマウマも走っていました。観光客の車に慣れている野生動物たちも、車から降りた人間は怖がりません。自転車がまたがった人間はどうなのか——得体の知れないものの出現に戸惑って、最初はやはり逃げて、けれどもそれほどの距離は逃げずに、こちらをじっと見つめてくるのです。近寄るとまた逃げる。キリンの集団は、目の前で見るとやはり大きいです。まるでスローモーション画像のようにゆっくり動くのに、歩幅が広いために移動速度は速いのです。野生動物と共に走る楽しさに結構はしゃいでしまったので疲れがたまってきましたが、それでも飽きることはなかったですね。



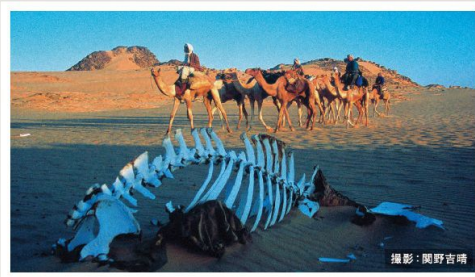
グレートジャーニーのゴール地点であるサバンナに到着して頭に浮かんだのは、「やっとたどり着いた」という安堵の気持ちと「人類はここから出発したのか」という感慨でした。ただ同時に、サバンナにはライオンやヒョウなどの猛獣、ゾウなどの大型動物も生息しているため、「この環境で生き抜くのはきついな」とも思いました。人類がもともと暮らしていた森には天敵がおらず、樹上生活をしていれば困ることはありません。それがなぜサバンナに出たのか——？繁殖力や力の弱かった人類は、類人猿が多く存在していたあの時代の環境では競争に負けてしまい、外に出ざるを得なかったと考えられます。そんな弱い人類がサバンナに出たらどうすればいいか？人類は2本足で立つて歩くことと、「コミュニティ」と「家族」をつくることで生き延びました。2本足になるとずいぶん遠くまで見えるようになり、外敵の存在に気づきやすくなります。また、コミュニティや家族をつくり集団を形成することでも襲われにくくなる。コミュニティと家族の倫理は異なります。大まかに表現すれば、コミュニティ(=群れ)の倫理は平等で、家族の倫理はえこひいきとでも言うのでしょうか。こうした相反する二つの倫理を持ち合わせているのは人類だけの特性で、地球上にこれほど繁栄することができた大きな要因の一つなのです。



世界中を旅して実感した平和

船の旅は、陸上の旅とは全く異なります。陸路と違い、海に行き止まりはない。世界中が海で繋がっているの、南米の海を見ているとそのまま日本まで漕いでいけると思えるのです。しかし、世界中を旅するようになって感じたのは、昔は存在しなかった国境というものが、いかに面倒くさいかということ。特に海。ヨットやビースポートのような客船なら手続きは簡単です。ところが私は、インドネシアで手作りしたエンジンのない、手漕ぎの木の舟で港へ入ろうとした。それだと範疇としては船ではなく、「巨大漂流物」の扱いなんです。入港の際には大量の書類が必要で、この時はもう港に入れないかと思いました。

私のグレートジャーニーは冷戦が終了し、湾岸戦争が終わってから再び中東がきな臭い状態になるまでの平和の隙間を縫って通り抜けてきた感があります。途中米国の同時多発テロとその報復のアフガン侵攻があり、その影響もありましたが、コースなどを変更してなんとか切り抜けられた。しかしもっと前、1980年代だったら内戦の中米や、社会主義時代のソ連やモンゴルを自由に旅することなど夢のようなことでした。



始まりの地での不思議な出会い

最後に、ビースポートとグレートジャーニーが交差したエピソードを紹介したいと思います。それは、9年ほど前のビースポートクルーズにゲストとして乗船した際、南米大陸の南端に位置するアルゼンチンのウシュアイアへ寄港したときのこと。街の近くにはチリとの国境を流れるビーグル水道がありますが、この海峡の対岸にあるナバリノ島はグレートジャーニーの出発地、つまりアフリカを出た人類が最後にたどり着いた地でした。せっかくなので、島の近くをゆくビーグル水道クルーズに参加したのですが、その船上でルーマニア人の一家から「グレートジャーニーの人ですか?」と声を掛けられました。よくよく話を聞いてみると、その家族は世界各地を旅していて、かつてタンザニアを訪れた際に、私がグレートジャーニーで最後にたどり着いたゴール地点を訪れたのだそう。その場所には記念の碑が建てられているのですが、その写真を見せてくれたんです。まさかグレートジャーニーの出発地付近で私のことを知るルーマニア人と出会うとは、それも旅のゴール地点の写真を見ることになるとは夢にも思いませんでした。こうした不思議なめぐり合わせがあるのが、旅の面白さですね。

関野さんおすすめ世界の魅力的な場所



マチュピチュ遺跡(ペルー)

アンデスの山中、標高2,400mの断崖に突如として姿をあらわす都市遺跡。15世紀半ばのインカ帝国時代に築かれ、1911年に発見されるまで、深い密林に覆われていたため神殿や段々畑、居住跡などがそのままの状態に残されています。

関野さん「立っただけで『すごい』と感じる場所。空中都市と言われる所以は、実際に現地を訪れると感じられる。」



アフリカのサファリ

弾むように大地を駆け回るインバラやシマウマ、悠々と草をはむキリンやゾウの姿を間近に眺めながらのドライブは迫力満点です。ほかの動物と比較して遭遇する可能性が低いビッグファイブ(ライオン・サイ・ゾウ・バッファロー・ヒョウ)との出会いにも期待が高まります。

関野さん「まるでメルヘンの世界にいるようで、そのままずっと走り続けたい気持ちになった。」



パタゴニアフィヨルド(チリ、アルゼンチン)

悠久の時間が削り出した壮大なフィヨルドは、堆積した雪によって長い時間圧縮されたことにより、氷の中に空気をほとんど含みません。気泡のない透明な氷は青い光だけを反射して他の色を吸収してしまうため、私たちの目には美しい青色となって映ります。

関野さん「『あっ、地球の一部が動いている』と実感できる場所。」



番外編 マダガスカル

インド洋に浮かぶ「第七の大陸」とも呼ばれる神秘の孤島。その特異な生態系と自然景観には、この島だけの進化を見ることができま

関野さん「進化してないサルがいたり、先住民が実はアフリカ人ではなかったり。航海術が発展してアジアから人が来た場所なんです。私は行くチャンスはなかったが、そういう点が面白い。」

THE GREAT JOURNEY HISTORY

グレートジャーニー行程(略歴)

1998年2月~1999年9月

シベリア横断

デジネフ(ロシア)・極東シベリア・コリマ街道・バイカル湖・ウランウデ・ウランバートル(モンゴル)

2000年3月~2001年3月

シルクロードを西へ

ウランバートル(モンゴル)・ゴビ砂漠・チベット・中央アジア・クチャン(ウイグル)

2001年3月~2002年2月

アフリカへ

クチャン(ウイグル)・紅海縦断・ヌビア砂漠・オルドバイ(タンザニア)

1996年4月~1997年8月

中米・北米に行く

ヤビサ(パナマ)・パンアメリカン・ハイウェイ・ナパル居留地(米国)・アラスカ南東フィヨルド・ユコン川・ベレーン海峡・デジネフ(ロシア)

1994年3月~1996年4月

南米に行く~アンデスに沿って~

ブルトユンガイ(チリ)・パタゴニア街道・パンアメリカン・ハイウェイ・チチカカ湖・タリエン地峡・ヤビサ(パナマ)

1994年1月~3月

パタゴニア南部氷床縦断

ブントアレナス(チリ)・パタゴニア南部氷床・パタゴニアフィヨルド・ブルトユンガイ(チリ)

1993年12月~1994年1月

マゼラン海峡横断

ナバリノ島(チリ)・ビーグル水道・フエゴ島・マゼラン海峡・ブントアレナス(チリ)

START
1993.12

GOAL
2002.2

COLORS OF THE SOUTHERN HEMISPHERE

「地球最後の秘境」に広がる氷と雪の絶景



南半球をめぐる世界一周クルーズでは、絶景が待ち受ける南極大陸へと上陸するオーバーランドツアーも企画しています。氷山の美しい造形や雪と氷に覆われた大地、そして凍と澄み切った静謐な空気—透明感に満ちた氷の世界と、たくましく生きる野生動物たちの姿は、この地でしか見ることのできない景色です。地球の最果てで、日々、昨日の感動を超えていくような光景と出会う体験は、一生の宝物になるでしょう。

ANTARCTICA

南極



南極の大地を踏みしめる

雪と氷に覆われた大地、氷山の芸術的な造形、そして凍と澄み切った空気—「地球最後の秘境」には、厳しくも美しい大自然がどこまでも広がっています。



動物たちの姿を間近で

ゾディアックボートなら、大きな船では近づけない場所にも接近可能。可愛いペンギンやアザラシなどの野生動物たちを間近で観察できるかもしれません。

ARGENTINA

アルゼンチン



華やかなタンゴの音色に包まれる

「アルゼンチンタンゴ発祥の地」とも言われるボカ地区。街のあちこちでタンゴのライブ演奏やペアドダンスのパフォーマンスと出会うことができます。



アルゼンチンの味覚を堪能する

アルゼンチンは、人より牛の数が多くことで知られる牛肉大国。炭火で焼いたステーキの「アサード」は、この国を訪れたらぜひ味わいたい一品です。



アルゼンチンの政治、経済、文化の中心として発展した、国際都市・ブエノスアイレス。古きヨーロッパの風情が漂う街並みは、南米屈指の美しさを誇ります。なかでも南部に位置するボカ地区の「カミニート」と呼ばれる一角は、この街一番の観光スポット。通り沿いにはカラフルな建物が軒を連ね、道端に並べられたアート作品が彩りに花を添えます。南米特有のカラッとした青空が色彩豊かな景観に映える街並みは、どこを切り取っても絵になります。

国際都市を彩る鮮やかな色たち

世界最古の赤い砂漠に魅せられて



国土の大部分を、8,000万前に誕生したといわれる世界最古の砂漠に覆われたナミビア。この地を語る上で外せないのが、ソスフレイと呼ばれる砂丘群。「赤い砂漠」を意味するこの一帯は、その名の通り砂が燃えるような赤に染まっているのです。赤色の砂丘が幾重にも連なる景観は、まさに絶景。太陽の動きと共に刻一刻と色彩を変える砂漠の景観は、言葉を超えての美しさです。小型機に乗ってソスフレイ上空を遊覧するツアーも楽しみです。



現地の言葉で「ラバ・ヌイ(大きな大地)」と呼ばれる、イースター島。島を中心に半径2,000キロメートルの範囲にはほとんど島影がない、まさに「絶海の孤島」には、およそ900体もの巨大なモアイ像が私たちを待ち受けます。祭壇に15体のモアイ像が立ち並ぶアフ・トンガリキや、モアイ製造工場のラノ・ララク、正座をするモアイなど、島に点在する個性豊かなモアイ像との出会いはもちろんのこと、独特の深い青色をした海の新しさもこの島の大きな魅力です。

緑の大地を切り裂く世界有数の大瀑布



アフリカ南部、ザンビアとジンバブエの国境に位置する世界三大瀑布のひとつ・ビクトリアの滝。滝の上部から注ぐ水の量は三大瀑布でも随一といわれ、雨季には轟音とともに噴煙と見間違えるほどの水煙が立ち昇る、圧巻の絶景を目にすることができます。この滝の特徴は、周囲数百キロにわたって広がるサバンナの真ん中に、突如として緑深い渓谷が現れるところ。道中では、ビクトリアの滝が育んだ多様な動植物の数々と出会えるでしょう。

人類を魅了する、色彩豊かな南半球の世界

NAMIBIA

ナミビア



バラエティ豊かなグルメに舌鼓

ウォルビスベイでは新鮮な魚介に加えて、ソーセージを始めとしたドイツ風の食事も楽しみ。肉や豆の煮込み料理もナミビアではポピュラーな一品です。



多民族コミュニティで文化体験

ナミビアでは、さまざまな民族が共生するコミュニティを訪れる交流プログラムも。現地に暮らす人びととの出会いを通じて、多様な文化を体験します。

EASTER ISLAND

イースター島



イースター島ではお土産もモアイづくし

お土産にはバラエティ豊かなモアイグッズを。なかでも置物は手彫りでひとつひとつ表情が異なるので、世界で一つだけのモアイ像と出会うことができます。



島の豊かな伝統文化にふれる

伝統のボディペインティングを施してもらったり、島に伝わるダンスと一緒に踊ったり、現地の人びとと過ごすひとときも、特別な旅の1ページです。

ZAMBIA / ZIMBABWE

ザンビア・ジンバブエ



轟音と水煙に支配された絶景を望む

ビクトリアの滝は現地語で「モシ・オ・トゥンヤ」—雷鳴轟く水煙と呼ばれ、その迫力あふれる姿と豊かな生態系から世界遺産にも登録されています。



ザンビアとジンバブエ、ふたつの国に広がる景観

大小多数の滝が流れ落ちるジンバブエ側と、より近くで滝の迫力が体感できるザンビア側、双方からビクトリアの滝の景観を楽しめるのもポイントです。

Boa viagem!

5DAYS IN BRAZIL

ブラジルを楽しみつくす5日間

大都市「リオデジャネイロ」と「サントス」に滞在する今クルーズ。
陽気な「アミーゴの国」ブラジルを楽しみましょう！



オーバーラヴァー

SPOTLIGHT

大迫力の轟音と水量に
圧倒される、世界最大の滝

ブラジルとアルゼンチンの二国にまたがるイグアスの滝。最大落差は約80m、滝幅は約4kmにも及びます。規格外のスケールをもつ滝を訪れたなら、ぜひともポートで滝の近くへ。水煙が上がり、地響きのような轟音が鳴り響くなか、世界最大の滝が目前に迫ります。先住民の言葉で「大いなる水」を意味するイグアスの滝。その水量にただただ圧倒され、言葉も出てきません。「虹だ!」そんな声を聞き振り返ると、滝の上に虹がかかり、より神秘的な光景を見せてくれます。

二国にまたがる滝の上には目には見えない国境線も。「世界一美しい国境線」と呼ばれ、滝とその周辺はユネスコの世界遺産にも登録されています。一生に一度は見たい、偉大なる自然の姿がここにあります。



SPOTLIGHT

サッカー好き必見!
名門クラブのスタジアム

サッカーの神様・ペレや、三浦知良選手も所属していたサントスFCをはじめ、サンパウロ市内には名門クラブが多数存在します。サッカー好きにはたまらない、ミュージアムも併設されています。

SPOTLIGHT

街にそそり立つ「砂糖パン?」

グアナバラ湾に突き出す巨大な奇岩ボン・ジ・アスーカルは、その形が砂糖パンに似ていることから、そう呼ばれるようになりました。リオの街のシンボル・コルコバードの丘の上の白亜のキリスト像と共に、ぜひ訪れたい場所です。



SPOTLIGHT

これぞブラジルメシ!
多様なグルメに舌鼓

多種多様なグルメが魅力のこの街を歩けば、美味しいものに出会えそうな雰囲気がかもしこに。南東部のリオでは米・豆料理がメインなのに対して、サンパウロではイタリアやスペイン、日本からの移民の影響で魚や野菜も多く食べられているそう。もちろん「ザ・お肉」なシュラスコも定番メニューです。食後には名産のブラジルコーヒーを。現地の方は砂糖をたっぷり入れて飲むそうで、熱い国ならではの食習慣にふれる楽しさ。



CARNIVAL IN RIO DE JANEIRO

世界最大規模の祭典
リオのカーニバル

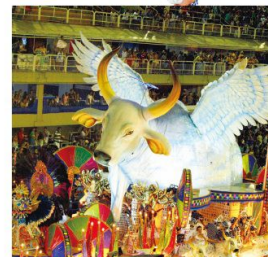
細部まで必見!
見ごたえある構成に注目

毎年チームごとにテーマとオリジナル楽曲を決め、登壇順に沿ってストーリーが展開。各パートは衣装や踊りも違うのでわかりやすく、チームごとで楽しめるのもポイントです。迫力あるダンスや音楽はもちろん、見ごたえある衣装や山車の飾りなど楽しみ方が多数あるのも魅力。



カーニバルの「顔」は
トップシークレット

大きさもさることながら、噴水や花火などダイナミックな仕掛けで魅せる山車は、1台の製作費も2000万円と桁違い。他チームに知られないよう、大きな格納庫の中で秘密裡に製作が進められます。カーニバル当日は人力で山車を曳き、スポットライトを浴びる瞬間を迎えるのです。



「世界最大規模」を
肌で感じる祭典へ

世界最大規模を誇るリオのカニバル。その背景にはブラジルという国が育んできた歴史や文化が深く根付いています。もともとはカトリックの祭事から始まり、リオのスラム街フアベラで産声を上げたサンバのバレーへと変化。音楽的にも黒人のルーツであるアフリカの太鼓のリズムや先住民の文化も取り入れ、現在の大規模なカーニバルへと発展しました。大きな流れの中で緩やかに発展してきた歴史とは裏腹に、コンテスの内容は実にシビア。テーマはブラジルにまつわることで、そして楽曲もオリジナルのみ。チームの構成メンバーも幅広い年代層の参加が絶対条件とするなど、細かなルールがびっしり。優勝争いも僅差で決まる、まさに真闘争の場なのです。



SPOTLIGHT

コーヒー大国ブラジル

コーヒー豆の一大産地として名を馳せるブラジル。サントスにある珈琲博物館では、その歴史を学べます。建物を彩るステンドグラスや床の大理石のモザイク模様が美しく、まるで絵本の中のようなようです。



「世界のいま」を感じる 世界一周クルーズの旅 全寄港地一覧



米国
ホノルル [オアフ島]
“ハワイ諸島への玄関口”で
夢のパケーションのはじまりを



タヒチ
パペーテ
ヨーロッパとポリネシア
ミックスカルチャーの美しき島



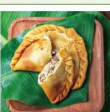
チリ
イースター島
ポリネシア文化圏の東端に
花開いた、謎の巨石文明



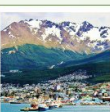
ペルー
カヤオ
新発見が続く、ナスカの地上絵
ロマンと秘められたミステリー



チリ
バルパライソ
カラフルな街並みが広がる
世界遺産の街



チリ
プンタアレナス
チリ最南端の都市で
伝統料理に舌鼓



アルゼンチン
ウシュアイア
氷河と森林限界が街に迫る
南極旅行への出発点



アルゼンチン
ブエルトマドリン
野生動物の宝庫
世界遺産のバルデス半島へ



アルゼンチン
ブエノスアイレス
街中に芸術が薫る
ラテンアメリカンアートの中心地



ウルグアイ
モンテビデオ
ラプラタ川のほとりで
南米近代史を訪ね歩く



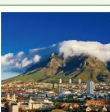
ブラジル
サントス
生産量世界一、本場で体験する
最高級のコーヒー文化



ブラジル
リオデジャネイロ
奇岩連なる紺碧の海と白砂
が織りなす、世界三大美港



ナミビア
ウォルビスベイ
まるで月面世界
世界最古のナミブ砂漠



南アフリカ
ケープタウン
テーブルマウンテンの麓で
ショッピングもレジャーも充実



南アフリカ
ポートエリザベス
伝統と革新の共存
世界中で愛されるワインの故郷



マダガスカル
トアマシナ
独自の進化を遂げた
固有種の宝庫の島



モーリシャス
ポートルイス
インド洋の貴婦人と称される
世界トップクラスのビーチリゾート



シンガポール
アジアの人びとの往来が育んだ
多彩な食文化



台湾
基隆
美しい景観、そして美食
台北市民憩いの地



多様なニーズに合わせて選べる船室の数々

プライベート空間でも海を身近に感じられる、海側に面した船室を豊富に備えたパシフィック・ワールド号。旅の目的に合わせ、自由にお選びいただける船室設定です。



ご確認事項

- 天候や現地事情の影響により、入出港日時の変更や抜港になる場合がございます。
- 本船が沖合に停泊し、テンドーボートなどを使用して上陸する寄港地では、気象条件によっては上陸できない場合がございます。
- この旅行は地球の遠隔地への航海であり、天災地変、政治状況の悪化、現地官憲の命令など、当社が関与し得ない事由が生じた場合、乗船客の安全を第一と考え、また航海の安全を考慮し、お客様に事前に、あるいは緊急の場合は変更後にお知らせし、旅行日程、旅行サービスの内容を変更する場合がございます。
- 航海日程は船長や船会社の判断によっても変更される場合があります。
- 上記のような不可抗力による変更の場合でも、払い戻しは一切ございませんので、予めご了承ください。
- 本パンフレット記載の寄港地に関する案内文および写真の一部は、オーバーランドツアー含むオプションツアー（有料）に参加された場合にお楽しみいただける内容を含んでおります。
- オーバーランドツアーは寄港地で一時下船して別の港で再合流するツアーです。
- 本パンフレットに掲載の写真は、お客様にピースポートクルーズのイメージをお伝えするものであり、過去に使用した別の客船で撮影された写真も含んでおります。また、季節に関わりなく全て旅のイメージです。
- イースター島では原則自由行動はできません。後日発表のオプションツアーにご参加ください。
- 神戸港乗船の方は横浜港にて、また横浜港乗船の方は神戸港にて一時下船ができません。
- ご自宅から集合・解散地等発着港までの交通費は含みません。

パシフィック・ワールド号でゆくピースポート地球一周の船旅
2025年12月 Voyage122

神戸発着107日間 2025.12.14 (日)～2026.3.30 (月) ★初寄港
横浜発着107日間 2025.12.15 (月)～2026.3.31 (火)

日程		寄港地	
12.14 日	出航 午後	神戸	
12.15 月	出航 午後	横浜	
12.24 水	入港 午前	ホノルル [オアフ島]	米国
12.25 木	停泊		
12.26 金	出港 夜		
1.2 金	入港 出港 朝 夜	パペーテ	タヒチ
1.9 金	離泊 午前 夜	イースター島	チリ
1.19 月	入港 早朝	カヤオ	ペルー
1.20 火	停泊		
1.21 水	停泊		
1.22 木	出港 夜		
1.26 月	入港 出港 午前 夜	バルパライソ	チリ
パタゴニアフィヨルド遊覧			
1.31 土	入港 午後	ブンタアレナス	チリ
2.1 日	出港 夜		
2.3 火	入港 出港 朝 夜	ウシュアイア	アルゼンチン
2.6 金	入港 出港 午前 夜	ブエルトマドリン ★	アルゼンチン
2.9 月	入港 出港 朝 深夜	ブエノスアイレス	アルゼンチン
2.10 火	入港 出港 午後 夜	モンテビデオ	ウルグアイ
2.13 金	入港 朝	サントス ★	ブラジル
2.14 土	出港 夜		
2.15 日	入港 午後	リオデジャネイロ	ブラジル
2.16 月	停泊		
2.17 火	出港 午前		
2.26 木	入港 出港 朝 夜	ウォルビスベイ	ナミビア
3.1 日	入港 出港 朝 夜	ケープタウン	南アフリカ
3.3 火	入港 早朝	ポートエリザベス	南アフリカ
3.4 水	出港 夜		
3.9 月	入港 朝	トアマシナ	マダガスカル
3.10 火	出港 夜		
3.12 木	入港 出港 朝 午後	ポートルイス	モーリシャス
3.21 土	入港 出港 午前 深夜	シンガポール	
3.27 金	入港 出港 朝 夜	基隆	台湾
3.30 月	離泊 朝	神戸	
3.31 火	離泊 午後	横浜	

※訪問地や航路は、天候や海の状況による船長判断、その他の理由により変更する場合があります。

0:00～	4:00～	6:00～	8:00～	12:00～	18:00～	23:00～
深夜	早朝	朝	午前	午後	夜	深夜